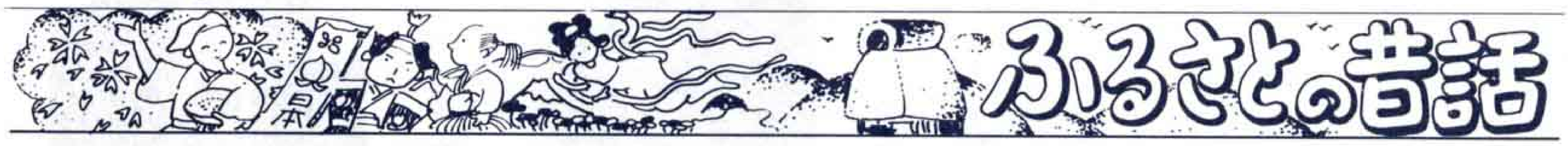
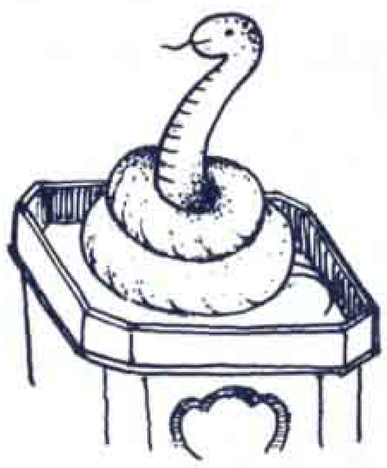


お不動さんの白蛇 ②

むかし、神谷村の後藤某（なにがし）という家の土蔵（くら）の中に、いつか白い蛇（へび）が住みついていました。

しかし、別に悪いことをするわけではなかったので、長い間そのままにしておいたところ、あるとき、その家の主人が、「おまえは世にもめずらしい白蛇（はくだ）である。おまえがほんとうに神のお使いであるならば、この三宝（さんぼう）の上に乗ってみよ。」といいました。

するとどうでしょう、その白い蛇は静かに三宝の上にのって、いかにも「私は神のお使いである。」ともいうように、トグロを巻きました。


三宝にのった白い蛇

そこで主人は白蛇を三宝にのせたまま、不動さんの本殿へもっていき静かにおいて帰ってきました。

そのあと、この白蛇は毎年3月28日のお祭りの日になると、きまって岩の割れ目に姿をあらわすようになりました。

そのため、お祭りに来る人たちはその光るものをみたさに、2㍍ばかりの岩をよじのぼって、岩の割れ目に顔をおしあてて、奥の方をそっとのぞきます。

たしかに割れ目の奥に、わずかな光を反射して、銀色にかがやくものが見えます。

よくよく見るとそれは蛇で、しかも白い蛇です。

土地の人々は、その白蛇をみた人は、近いうちにきっとよい事があるといい、この白蛇が不動さんの使いだと信じています。

【神谷のお不動さん】

神谷のお不動さん

白蛇（はくだ）で有名な神谷町のお不動さんの本殿（ほんでん）は、位牌岳（いはいだけ）から南へのびた尾根（おね）の一番先が、やがて平地となるあたりの、丘の西がわのすそをけずって建ててあります。

本殿の東がわは切りたった岩のかべになっていて、そのすそ近くにななめに長さ2㍍、巾5㌢深さ1.5㍍ほどの割れ目があります。

不思議なことに、毎年3月28日の不動尊のお祭りの日になると、きまってこの割れ目の奥に光るものが見えます。

普通の日にのぞいてみても何も見えないのに、この日に限ってみえるのも不思議です。

白と金色の蛇が

加藤正作さん
（75歳）
（神谷3丁目）

わしが子どものころ、岩の入口で白い蛇を見たことがある。

岩の中には、白い蛇と金色の蛇がいるといわれている。

昔から、蛇をいじめたり殺したりしてはいけないといわれてきた。

もしもそんなことをしたら、たたりがあるんだよ。

表紙のことば

日ごろの自分たちの生活や学習活動を発表しよう ―― と市総合育精施設ふじやま学園の子どもたち47人は、2月24日の日曜日、学園で生活発表会を開きました。

発表会には子どもたちのおとうさんおかあさんも参加。

特に、午後の部ではおかあさんたちによる演劇〝大きなかぶ〟に子どもたちは大よろこび。

子どもたちも、この日のために何日もかかって練習した演劇〝金のがちょう〟を熱演。会場は子どもと父母の笑い声で楽しさいっぱいでした。